



# 京都大学基金 活動報告書

FUND ACTIVITY  
REPORT  
2024年度

## 生きた証を次世代のために

京都大学では、「遺贈」に関するご相談を受け付けています。  
専任スタッフが対応いたしますので、お気軽にご連絡ください。

### 京都大学 遺贈寄付相談センター

TEL **075-753-5425**

受付日時 **平日 9:00~12:00、13:00~17:00**  
(祝日、6月18日(創立記念日)、12月29日~1月3日除く)

メールアドレス **souzoku@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp**

※遺贈(遺言による寄付)、相続財産からの寄付(ご遺族からの寄付)をした場合、

**税制上の優遇措置**があります。

遺贈・相続財産のご寄付の詳細は、こちらからご覧ください。

<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/bequest/>



**不動産などの現物寄付も受け付けています。**

ご相談いただいた方(ご希望者)には、  
京都大学オリジナル「くすのきノート」(エンディングノート)  
をお配りしております。  
どんな些細なご質問でも、気兼ねなくご相談ください。



お問い合わせ先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

#### ▶ ご寄付の内容について

京都基金室 TEL.075-753-5561

東京基金室 TEL.03-6262-5818

kikinshitsu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

#### ▶ ご寄付の手続きについて

基金事務局

TEL.075-753-2210

kikin@kikin.kyoto-u.ac.jp

## 京都大学基金へのご支援のお願い



未来を拓く研究成果を  
社会の持続的発展へとつなぐ。

### Message from the President

京都大学 総長

湊 長博

京都大学は1897年の創立以来、「自由の学風」のもと、自主独立の精神を重んじ、教育と研究を推進してまいりました。本学の特色は、学問の枠を超えて多様な知を尊び、創造性を育む風土にあり、そこには常に新たな問いを立て、自らの手で道を切り拓こうとする探究心が確かに根づいています。そうしてこれまで125年余に亘り、文化と歴史が息づく京都の地で、世界に伍する研究大学をめざし、その歩みを着実に重ねてまいりました。

現代社会は、気候変動、エネルギー問題、地域格差、少子高齢化といった複合的で困難な多くの課題に直面しています。世界情勢の不安定化が進む中、日本社会においても長期的な経済の停滞が続き、将来への展望が描きづらくなっているのが現状です。このような時代だからこそ、諸課題の解決に向けて、大学が一層新たな知を創造しその成果を広く発信して、社会の持続的発展に寄与することが強く期待されています。

本学では、創立以来の理念に基づき、社会課題の解決に向けた学術的取り組みを一層推進するため、2024年4月に

「成長戦略本部」を設置しました。この成長戦略本部は、従来の産官学連携体制を再編し、ファンドレイジングを含むステークホルダーとの連携を統合的に進める中核組織として位置づけられています。また、2025年1月に設置された「総合研究推進本部」では、大学全体を俯瞰し、エビデンスに基づいた戦略的な研究推進の方針を提案する役割を担っています。これらの組織がシームレスに連携することにより、学術研究の成果から社会価値・経済価値を創出し、大学基金の拡大につなげることで、さらなる学術研究への再投資を行う自立的成長モデルを構築したいと考えております。

京都大学基金は、これまで多くの皆様からの温かいご支援により、教育研究環境の充実や次世代を担う人材の育成に資するさまざまな活動に役立ててまいりました。これからも京都大学が世界に輝く研究大学として進化を続けていくためには、皆様からの継続的なご支援が不可欠です。未来を拓く知の創出と社会との連携を一層深めていくために、引き続き京都大学基金へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 京都大学の組織編成について

2024年4月に成長戦略本部を設置しました。京都大学の研究成果の社会還元を促進し、社会変化を促すイノベーションの創造に貢献すること、また京都大学を取り巻きさまざまなステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、京都大学の知を広くお伝えすることをミッションとしています。また、2025年1月

には、研究者の自由な発想と創造的な挑戦を支援するとともに、本学の学術研究をさらに推進し、裾野を広げていくことを目的として総合研究推進本部を設置しました。これら二つの本部がシームレスな連携を進めることによって、自立的な大学経営に向けた好循環を形成していくことをめざしております。



## 基金室の活動

これまでは渉外部門の基金室が京都大学基金へのご支援を働きかける活動を進めてまいりました。新組織・成長戦略本部のもとでは、ソーシャルリレーションズ領域において活動を進めてまいります。引き続き、京都大学基金へのご支援を働きかける

とともに、同窓会事務局と連携して国内外の同窓生の皆様との関係づくりにより一層取り組むほか、地域の皆様や全国の京大ファンの皆様に京都大学の魅力を伝える活動を進めてまいります。

新たな知と価値を創造し続け、  
皆様の期待にお応えしてまいります。

国立大学の法人化に伴い、大学には経営の自立が求められるようになりました。京都大学では、持続的に教育・研究を展開し、未来を担う人材を育成するための基盤として、2007年に京都大学基金を設立しました。これまでに25万件を超えるご寄付、累計で700億円を超えるご支援を賜っており、皆様からの温かいご厚志は、国際的な研究力の強化や社会との連携、そして独創的な人材育成に大きく寄与しています。こうした支えの一つひとつが京都大学の力となっておりますこと、心より感謝申し上げます。

京都大学は、自由の学風のもと、歴史と伝統に根ざしながら、新たな知と価値を創造し続けることに努めてまいりました。また本学では、多様性を力に変え、未来を開く大学であることをめざして、DEIB(ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン&ピロンギング)宣言を発出しました。千年の都・京都という世界的な文化都市に立地する研究大学として、学術・文化・芸術を育み、その成果を世界へと発信し、皆様の期待と信頼に応えたいと思っています。今後とも京都大学基金への変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



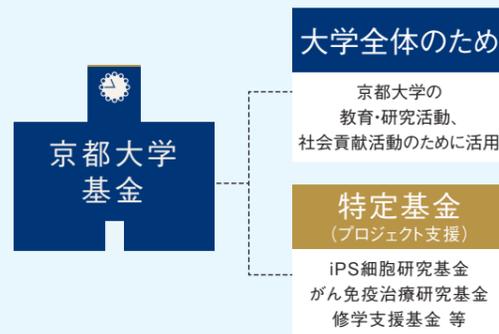
稲垣 恭子  
京都大学 理事・副学長(渉外担当)

ご寄付の目的  
大学全体への寄付と特定基金について

京都大学基金のご寄付の目的は、京都大学全体へのご支援をお受けする基金と、あらかじめご寄付の用途を定めた「特定基金」の2つの基金で構成されています。

大学全体への寄付は、現在京都大学に在籍する学生や研究者に対する教育研究環境整備などに活用させていただいております。「特定基金」としては、iPS細胞研究基金やがん免疫治療研究基金など世界的な研究を支える基金や、経済的困難を抱える学生を支援する修学支援基金など、本学へのさまざまな支援の受け皿となる基金を設置しています。

皆様からいただいたご寄付は、その用途を含む資金管理および資金運用に関して、基本方針や体制を整備して取り組んでいます。大学全体に対するご寄付の用途は、基金運営委員会、役員会の審議を経て決定しております。資金運用に関しては、資金運用管理委員会を設置し、委員(学外の有識者含む)の実務経験に基づく専門性の高い知見をもとに、より高い収益性を追求しつつ、可能な限りリスクを抑えた運用を行っています。



- 大学全体のご寄付の用途**  
基金運営委員会・役員会 が 審議・決定
- 資金運用**  
資金運用管理委員会 が 高い収益性・リスクを抑え運用

京都大学基金の詳細はこちらからご覧ください。▶▶▶  
<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

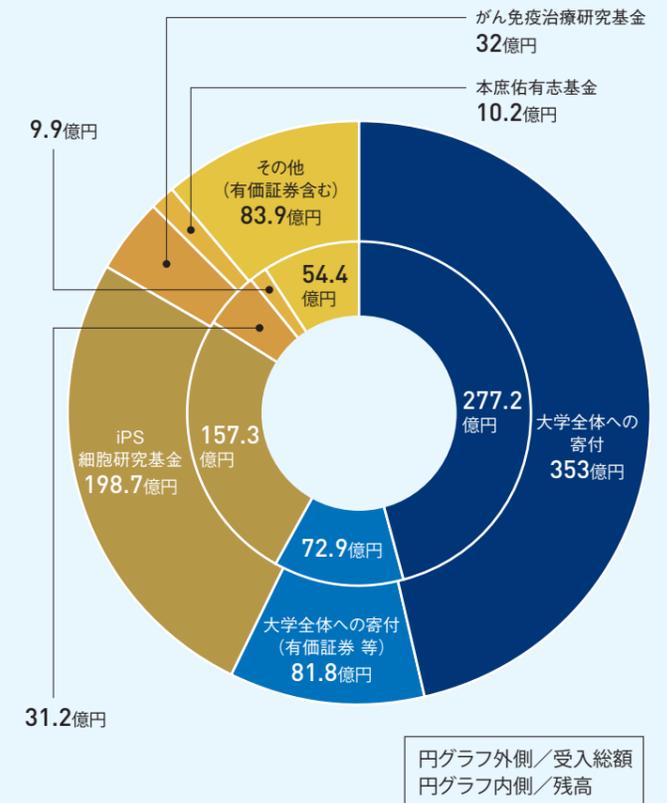


累計寄付受入実績

京都大学基金の拡充に向け、京都基金室・東京基金室では、企業、卒業生、地域の皆様や在学生のご家族など、幅広く支援のお願いを進めております。日常の活動としては、企業や卒業生の皆様への訪問、同窓会と連携した大学広報誌の送付など、京都大学の今をお伝えしながら、皆様の京都大学への想いをつなぐ活動を進めております。その結果、寄付受入総額は着実に増加を続けております。2007年3月以来の寄付受入総額は、2025年3月末時点で、約760億円(大学全体へのご寄付:434.8億円、特定基金へのご寄付:324.8億円)となりました。

累計寄付受入総額 約**760**億円  
残高 約**603**億円

寄付受入総額および残高



単年度受入実績の推移

こちらのグラフは、2019年度から2024年度までの受入実績の推移を示したものです。2022年の創立125周年に向けて寄付募集活動を行い、多くのご寄付をいただきました。

また、折れ線グラフは寄付件数となります。2022年度は39,079件、2023年度は37,306件、2024年度は34,133件で推移しております。



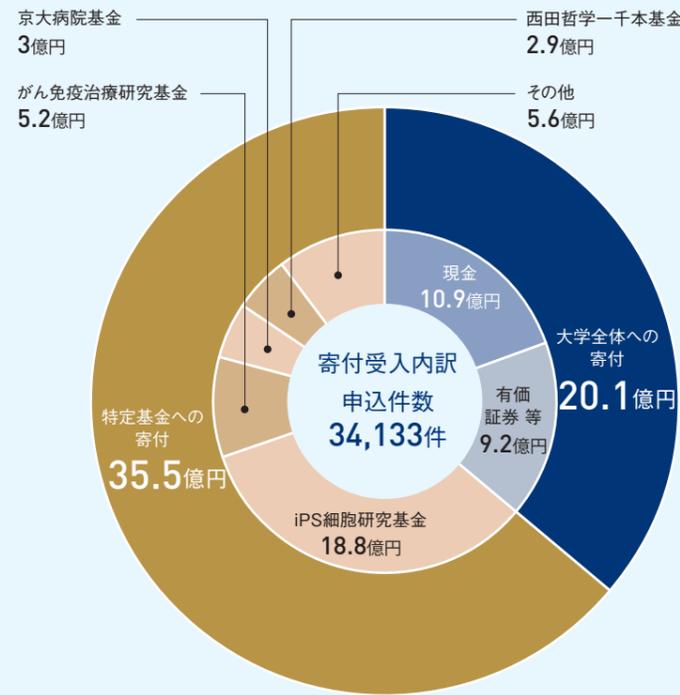
## 2024年度 受入実績

2024年度は、京都大学基金全体で34,133件、55.6億円のご寄付をいただきました。内訳は大学全体へのご寄付が20.1億円(有価証券等による9.2億円を含む)、特定基金へのご寄付が35.5億円です。特定基金の内訳としては、iPS細胞研究基金18.8億円、がん免疫治療研究基金5.2億円、京大病院基金3億円、西田哲学一千本基金2.9億円、その他が5.6億円となっています。

2024年度  
寄付受入総額 **55.6億円**

大学全体への寄付  
**20.1億円**

特定基金への寄付  
**35.5億円**



## 2024年度 収支報告

2024年度は、収入が5,563百万円、支出が2,485百万円となり、2024年度の収支は3,078百万円のプラスとなりました。収入としては有価証券等(915百万円)も一定の割合を占めています。支出では、大学全体のための活動費(995百万円)と特定基金等への活用(1,490百万円)が中心です。このように皆様からご支援いただいた寄付については、京都大学の教育研究活動等に活用させていただいております。

| 項目                  | 金額(百万円)      |
|---------------------|--------------|
| 収入                  |              |
| 大学全体のため(現金)         | 1,086        |
| 大学全体のため(有価証券等)      | 915          |
| 特定基金等               | 3,562        |
| <b>収入計</b>          | <b>5,563</b> |
| 支出                  |              |
| 大学全体のため             | 995          |
| 特定基金等               | 1,490        |
| <b>支出計</b>          | <b>2,485</b> |
| <b>収支差合計(収入-支出)</b> | <b>3,078</b> |

## TOPICS

### TOPICS 01 寄付金を活用した「冠教授」制度を創設。

寄付者(個人および企業・財団など)が本学に寄付を行うことで、希望する企業名などを冠することができる「冠教授」制度を2025年4月に創設しました。冠教授に任命された教員(対象者:原則、本学の教授のうち、国際的に卓越した研究業績を有している者。これが期待される業績含む。)には、寄付の運用益を原資として研究費や手当などが付与されます。

※原則として、寄付額の総額を個人または複数の方による共同でご寄付(現金または有価証券)いただくことを想定。

#### 柏原正樹博士のノーベル賞受賞を記念した寄付募集を開始。

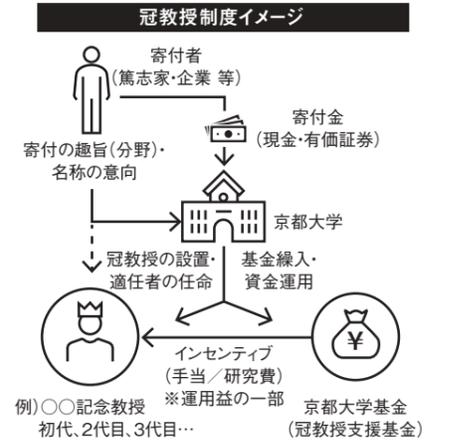
“数学のノーベル賞”とも呼ばれるノーベル賞を日本人として初めて受賞した、柏原正樹博士(数理解析研究所 特任教授、高等研究院 特定教授)の受賞を記念し、数学・数理学分野での冠教授設置に向けた寄付募集を行います。柏原博士の業績を後世まで顕彰するとともに、卓越した研究者を支援していきたいと考えています。

#### ■ 制度に関するお問い合わせ

総合研究推進本部 人材マネジメント領域  
kura-hrm@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

#### ■ 寄付募集に関するお問い合わせ

成長戦略本部 ソーシャルリレーションズ領域  
kikinshitsu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



### TOPICS 02 ご当地学生の挑戦を応援するクラウドファンディング。

地域の皆様と学生を支援する取り組みとして、海外留学をサポートするクラウドファンディングを立ち上げました。ご支援いただいた皆様には、支援を受けた学生からの留学報告という形で感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。

北海道、石川県、富山県、静岡県、岡山県、広島県、福岡県の7都道府県の高校を卒業した学生が対象です。支援対象となる留学プログラムは、本学が実施・推奨する交換留学です。本プロジェクトは京都大学へのご寄付となりますので、法人税法、所得税法による税制上の優遇措置を受けることが可能です。



クラウドファンディングの詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://unisupportnavi.com/kyoto-u/>



### TOPICS 03 京都・東京にて「感謝の集い」を開催。

ご寄付をいただいた皆様に謝意をお伝えする場として、京都と東京にて開催し、基金の現状や活用事例を報告しました。京都では寄付による支援を受ける研究者と学生が研究発表を、東京国立博物館平成館を会場とした東京では、稲垣恭子理事・副学長と同博物館学芸研究部長の河野一隆氏による対談やパーティーなどを行いました。



### TOPICS 04 ドリンク1本からできる気軽な寄付。

2025年3月、附属図書館に寄附型飲料自動販売機を設置しました。株式会社伊藤園の社会貢献事業として提案いただいたもので、毎月の売上のうち10%が京都大学基金に寄付されます。本機は、卒業生のイラストレーターが手がけた時計台のイラストでラッピングされています。ご寄付は、学生や研究者の支援や環境整備などに活用されます。



# 「京都大学創立125周年記念ファンド「くすのき・125」

## 2020年～2022年に公募し、次世代研究者の挑戦を支援。

近年生じている若手研究者を取り巻く課題、例えば短期間で成果を求められる風潮や、研究以外の業務の増加によって研究に十分な時間を割けない状況、論文数や特許数といった定量的な評価指標の偏重により、長期の時間を要する研究や、結果の見えにくい革新的な研究を進めることが困難になっています。こうした課題に対応するため、創立125周年記念事業の一環として、寄付金を原資とした学内ファンド※「くすのき・125」を実施しました。125年先の未来にある調和した地球社会のビジョンを描き、その実現に向けて独創的な研究に挑戦する研究者39名を採択。寄付金だからこそ可能で柔軟な支援を通じて意欲ある研究活動を後押ししました。

※京都大学のめざす目標に向けて、京都大学が持つ資金を学内の教職員等に提供する制度です。

## DATA

### 過去支援実績

|        | 支援金額(総配分額) | 支援研究者数 |
|--------|------------|--------|
| 2020年度 | 5,790万円    | 12人    |
| 2021年度 | 6,479万円    | 14人    |
| 2022年度 | 5,915万円    | 13人    |

「くすのき・125」の詳細はこちらをご覧ください。



<https://www.research.kyoto-u.ac.jp/blog/kusunoki125/>

## 第一回「山本進一記念賞」大賞を受賞!

「くすのき・125」を企画・運営した総合研究推進本部は、この取り組みにより、2024年度に新設された「山本進一記念賞」を受賞しました。同賞は、大学等における研究開発マネジメントの好事例と、それを支えるチームの功績を顕彰することを目的に、研究大学コンソーシアム※が授与する賞です。第一回目の受賞対象として選ばれたことは、学内の研究者だけでなく、学外からも非常に高く評価された結果と受け止めています。

※研究力強化に取り組む大学および大学共同利用機関法人により形成され、全国的な研究基盤の底上げをめざすネットワーク組織。



## Outreach

### 各採択者の思いを社会へ発信。

採択者となった研究者のインタビューを動画・記事・冊子にまとめ、webに掲載しました。2025年1月からはnoteに移行し、読者からのコメントを受け付けられるようにしたことで、より効果的に一般の方からのフィードバックを得られる体制にしています。

採択者のインタビューはこちらをご覧ください。▶▶▶  
[https://note.com/kyotou\\_research/m/m2ad392772faf](https://note.com/kyotou_research/m/m2ad392772faf)



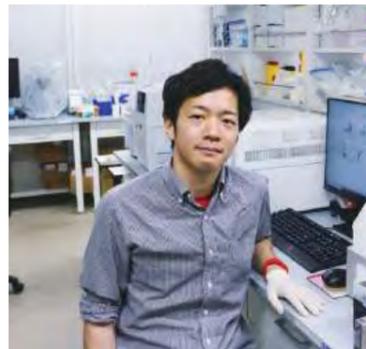
### 対話の場・アカデミックデイを開催。

「くすのき・125」の採択者を含むさまざまな分野の研究者と一般の参加者による対話型のオープンなイベント。2024年度は年2回(9月にゼスト御池、11月に本学の百周年時計台記念館にて)開催し、多くの参加者が最新の研究にふれ対話を楽しみました。



## 研究者VOICE

## 終了報告



環境微生物の生態に迫る研究プラットフォームを構築し、理想の研究者像に一步近づくことができた。

岡崎 友輔 化学研究所 助教

### 採択テーマ

#### 環境微生物・ウイルスのドライな謎にウェットに迫る

ゲノム解析技術の発展は、環境中の微生物の網羅的な解析を可能にしました。こうしたドライな手法で示唆された微生物の生態を実際に解明するには、サンプルの単離培養・実験といったウェットな研究が必要です。本研究では、ドライとウェットをつなぐ微生物研究のプラットフォーム構築をめざし、難培養微生物の培養手法の確立に取り組みました。

### Q. 採択期間中の研究成果について教えてください。

難培養微生物の単離培養に必要なフローサイトメーターという機器を購入し、実験系を構築しました。具体的には、琵琶湖の深層から採取した水を希釈して大量のサンプルを用意し、特別な機能を備えたフローサイトメーターにかけることで、効率的に微生物を見つけ出して培養するという国内では初の手法です。これによって研究効率が飛躍的に向上し、複数の未報告の微生物系統の単離培養に成功しただけでなく、微生物が好む環境の解明や培養の鍵となる未知の物質の探究など、研究の可能性がさまざまな方向に広がりました。



(左) 本研究で用いている京都大学の琵琶湖調査船「はす」。  
(右) 採択後に購入したフローサイトメーター。

### Q. 助成を受けたことで、どんな変化がありましたか?

以前は単離培養の難しさがネックになってなかなかウェットな研究に取り組みずいたのですが、助成をいただいたことで、ドライとウェット両方に取り組むという理想の研究者像に近づけました。貴重な実験系を構築できた波及効果として、チェコ、韓国、スイスなどの研究チームとの国際共同研究も進んでいます。さらに研究の輪を広げて、さまざまな環境に棲息する微生物の生態の解明、ひいては地球環境への理解を深めることにつなげたいと思っています。寄付をいただいた皆様に研究成果で応えられるように、これからも精一杯取り組みます。



脳腫瘍から生還した患者さんに必要なケアを届けるために、研究から人材育成まで幅広くチャレンジできた。

田畑 阿美 医学研究科 講師

### 採択テーマ

#### 「脳腫瘍になった。だけど未来がある」を支えたい

医療の進歩によって脳腫瘍患者の生命予後が改善されつつある一方で、治療後も脳機能に障がい残り、日常生活や社会、学校への復帰の妨げになるケースが多いことはあまり知られていません。本研究では、そうした人々へ十分な支援が行き渡るよう、障がいと困りごとの実態解明、普及啓発、ケアの場の充実などに多面的に取り組みました。

### Q. 採択期間中の研究成果について教えてください。

成人の良性脳腫瘍や小児がんの患者さんを対象に、これまでケアにつながりづらかった人々をケアにつなげやすくするための研究に取り組みました。脳腫瘍の患者さん・ご家族を対象にした研究では、脳機能に残った障がいと、ご本人や周囲が感じている困りごとについて調査した結果、ご本人にしかわからない困りごとが多くある実態が見えてきました。また、ケアの必要性を判断するための検査には時間がかかり、患者さんにも、現場にも負担になっています。そこで、小児脳腫瘍の患者さんご家族にご協力いただき、詳細な検査の必要性を判断するためのスクリーニング方法について検討しました。



(左) 患者さんの検査や支援を行う家族・発達支援研究室。  
(右) 学術集会シンポジウムでアンケート調査の報告を行った。

### Q. 助成を受けたことで、どんな変化がありましたか?

資金は患者さんのための環境整備に使わせていただいたほか、事務員さんを雇用して、私自身が研究や教育普及にかける時間を大幅に増やすことができました。くすのき・125をきっかけにお声がけいただき、学外の小児がん研究チームにも参加しています。そんななかで感じたのが、同じ志をもつ人材育成の必要性です。日本ではまだ数の少ないがん専門作業療法士の資格を採択期間中に取得し、現在はその養成プログラムを学内で開始しています。若手研究者が自身の夢に挑戦するのは簡単ではありません。支えてくださる皆様に心から感謝いたします。

# 企業寄附奨学制度 DDD: Division of Graduate Studies Donor Designated Scholarship

## 優秀な大学院生を支援し企業との交流も図る制度。

本学の大学院教育では、優秀で意欲的な学生が国内外から集まり、切磋琢磨できる環境を整えるため、就職をせずに就学する際の経済的負担を緩和し、将来のキャリアパスを明確にすること、そのための教育機会や支援を提供することが不可欠と認識し、さまざまな取り組みを進めてきました。こうした取り組みの中で本学卒業生や修了生が活躍する企業からの寄付による、極めて優秀な本学大学院生を対象とした企業寄附奨学制度が誕生しました。経済支援を行い研究活動を奨励するとともに、民間企業と積極的に交流を行い、研究インターンシップを含む産学協同教育の発展、大学院生のキャリアプランの具体化、業界理解の促進を実現することをめざしています。

### DATA

年度ごとの参加企業数と奨学生数の推移

| 年度     | 参加企業数 | 奨学生数    |
|--------|-------|---------|
| 2023年度 | 6社    | 8人      |
| 2024年度 | 9社    | 22人     |
| 2025年度 | 14社   | 30人(予定) |

※2024年度は、繰り上げ合格者1名を含んだ人数。

## 学生VOICE



**朴 鎔基**  
工学研究科 機械理工学専攻  
博士後期課程 1回生(25年4月時点)  
支援企業: 兵神装備株式会社

### バイト時間を大幅に減らせて 研究に専念でき、学会発表も実現。

#### Q.企業寄附奨学制度に応募したきっかけは?

東京の大学を卒業後、京都大学大学院に入学しました。学部時代の奨学金を返済しながらひとり暮らしするのは大変です。アルバイトに追われる毎日を何とかしたいと、奨学金制度を検討。生活費に使えるよう、使途に制限がなく、他の奨学金との併願も可能な企業寄附奨学制度に応募しました。

#### Q.支援を受けてどのような変化がありましたか?

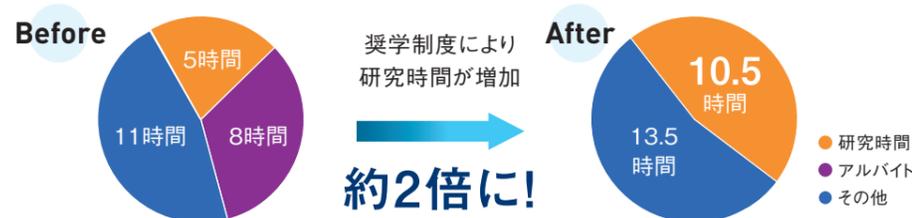
一番の変化は、研究時間が増えたことです。以前は15時ごろに研究室を出てアルバイトに行き、日付が変わってから帰宅していました。今は何時間でも研究に費やせて、帰宅後に家で作業する余裕もあります。研究に専念できたおかげで成果を得られただけでなく、学会で発表するまでになりました。ご支援いただいた企業の工場見学も新鮮で、最新の理論を基に顧客ニーズに応えるものづくりの現場にとっても刺激を受けました。

#### Q.今後の目標について聞かせてください。

まずは博士課程を3年間で修了すること。その後、一旦就職するか、大学に残るかはまだ決めていませんが、いずれはアカデミアで研究を続けて科学の発展に寄与したいです。自分の発見が社会で活かされる、あるいはその発見を将来の誰かが役立てるなどして、社会に貢献できればと考えています。

### DATA

奨学金受給後の生活スタイルの変化



## CROSS TALK

### ◀ 支援企業 × 学生 ▶

**市田 邦洋 氏**  
兵神装備株式会社 代表取締役社長  
1982年京都大学工学部精密工学科卒業。大手鉄鋼メーカー在籍中に、マサチューセッツ工科大学大学院経営工学科専攻修了。2005年兵神装備入社、2021年より現職。

未来を託す、  
思いを受け取る

**赤尾 拓海**  
工学研究科 機械理工学専攻  
博士後期課程 3回生(25年4月時点)

兵神装備株式会社 代表取締役社長・市田氏とその支援を受けた大学院生・赤尾さん。企業が学生に寄せる期待、学生が支援によって得た研究成果や成長について語っていただきました。

#### 日本の製造業の未来を担う人材を支援。

**赤尾** 博士後期課程2回生の時に他大学から転入学してきた当時の私は、経済的に厳しい状況にありました。DDDの奨学金を支給いただいたおかげで、精神的に安心感が得られた上に、研究に十分な時間を割くことができ、感謝しています。

**市田** 2024年からDDDに参画したのは、ものづくり企業の一員として、日本の製造業に貢献したいと以前から考えていたからです。支援の対象は、当社の事業とダイレクトに関わる研究テーマに取り組んでいる学生さんでなくても構いません。赤尾さんのような未来を担う人材を支援することで、製造業がより活発に発展してほしいと願っています。

**赤尾** 研究に専念できる環境があってこそ、研究成果につながることができたと思っています。昨年12月に開催された国際学会では口頭発表が評価され、表彰の候補として推薦されました。今年度中に国際誌への投稿およびアクセプトをめざして準備を進めています。

**市田** 気象分野だけでなくさまざまな分野で実学にも結びつく研究テーマだと思うので、論文の完成を楽しみにしていますよ。

#### 企業との交流で得られた新たな気づき。

**赤尾** 工場見学や成果発表会において、企業の方々と交流できたのも貴重な機会でした。製品について詳しく知ることができたと同時に、普段のアカデミアの世界とは異なる実学的な視点からの対話を通じて新たな気づきが得られました。研究に取り組むうえで、成果を出す

だけにとどまらず、その先を見据えて何に活かせるかを考えるようになったのは、私の大きな変化です。また、市田社長と対面した際にかけていただいた激励の言葉も、研究の支えになりました。

**市田** 今後も同じものづくりに関わる仲間として関係を継続できればと思っています。恩を感じる必要はありませんが、縁は大切にしてもらえると嬉しいです。

#### 豊かな社会づくりに貢献。

**赤尾** 卒業後の進路はまだ、いろいろな選択肢の中から模索中です。ただ、どのような進路を選択するにしろ、利便性を向上させる、地球にやさしい社会を追究するなど、社会を豊かにするために貢献したいというポリシーは持ち続けたいと考えています。

**市田** 一つの研究に取り組む中で培ってきた思考力は、今後の社会生活でも間違いなく活かされるでしょう。これからの活躍を期待しています。

#### 兵神装備株式会社

1968年創業の産業用ポンプメーカー。本社は兵庫県神戸市。主力製品モノノポンプ(R)およびモノディスペンサー(R)は、上下水道、食品、化学、製紙、土木・建築、自動車、電機、船舶などさまざまな産業分野で難液移送のニーズに応える。

#### 赤尾さんの研究テーマ

##### 安定密度成層下における超大規模構造が乱流混合モデルパラメータに及ぼす影響の評価

専門は環境熱流体工学。水や空気における乱流で発生した超大規模構造が、物質の混ざり合い等にどれほど影響しているのかを研究。従来のモデルでは考慮されていないこの影響を数値的に評価することをめざしている。



兵神装備株式会社 代表取締役社長・市田氏

赤尾さん

兵神装備株式会社

赤尾さんの研究テーマ

安定密度成層下における超大規模構造が乱流混合モデルパラメータに及ぼす影響の評価

専門は環境熱流体工学。水や空気における乱流で発生した超大規模構造が、物質の混ざり合い等にどれほど影響しているのかを研究。従来のモデルでは考慮されていないこの影響を数値的に評価することをめざしている。

# SMBC京大スタジオ

## 研究と産業界が挑む、社会課題解決と価値創造。

SMBC京大スタジオは、2024年7月、京都大学、株式会社三井住友フィナンシャルグループ（以下、グループを総称して「SMBCグループ」）、株式会社日本総合研究所（以下、「日本総研」）の連携で設立されました。先端的・独創的な研究を推進する京都大学と、産業界のハブとして幸せな成長の実現をめざすSMBCグループが連携することで、①社会課題解決に向けた事業創出、②社会課題解決に取り組む人材の輩出、③社会的価値創造による好循環の実現をめざします。具体的には、京都大学の研究者と日本総研の研究者による複数の共同プロジェクトを推進。いずれも社会課題を起点とし、市民・企業・行政とのオープンな対話を重ねながら研究を進めています。



## SMBC京大スタジオの活動



SMBC京大スタジオの詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://smbcstudio.iac.kyoto-u.ac.jp/>



### 2025年度実施予定のプロジェクト

学内向けの研究テーマ公募を行い、以下の申請が採択されました。コ・クリエーションコースの採択案件は今後、日本総研の研究者との共同プロジェクトを立ち上げます。ディスカバリーコースは本学の研究者が中心となり、社会的価値の創出につながる仮説について実現性の評価を行います。

#### ■ コ・クリエーションコース

- 酵素を活用したどこでも誰でも使えるCO<sub>2</sub>資源化技術の開発・実装（農学研究科・助教 宋和慶盛）
- 日本の診療現場に最適化された国産の医療特化型言語AIモデルの社会実装（情報学研究科・博士後期課程 岡田直己）

#### ■ ディスカバリーコース

- 海外人材の送り出し・受け入れ制度と非正規化：社会的費用と制度的課題（文学研究科・准教授 安里和晃）
- 軽度認知症高齢者に対するACPプログラムの開発（医学研究科・博士後期課程 小川真依）
- 社会格差は正に向けた一人当たり型経済・社会指標の標準化（総合生存学館・教授 趙亮）
- 漁業者協働の海洋環境モニタリング：効率的な漁業と効果的な資源管理の同時解決（生存圏研究所・特定講師 松葉史紗子）

## 2024年度プロジェクト紹介

### 貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及

#### 『『生きる』教育』で安全な価値観を育む。

日本において貧困状態にある子どもは9人に1人、ひとり親世帯となると2人に1人のばります（2021年時点）。貧困は家庭での虐待リスクを高めます。また、虐待を受けた子どもたちは発達・学業達成にも困難をきたし、大人になっても悪影響が続く傾向が見られます。本プロジェクトでは、こうした社会課題に『『生きる』教育』※によってアプローチしようとしています。『『生きる』教育』とは、人生の困難を解決するために必要な知識を習得し、友だちとの対話から安全な価値観を育むことをめざす教育です。『『生きる』教育』の重要性を明らかにする基礎研究と、新規プログラム開発、学校現場への普及活動に取り組んでいます。

※大阪市立生野南小学校（現・田島南小中一貫校）で開発された独自の教育プログラム。



『『生きる』教育』の教具（単元「子どもの権利条約って知ってる？」）

#### それぞれの学校に合ったプログラム開発をめざして。

教育学研究科の研究者8名が参加しており、各専門分野で研究を進めています。プロジェクトを立ち上げた西岡加名恵教授の研究テーマは、米国におけるトラウマ・インフォームド教育です。『『生きる』教育』が誕生した生野南小（現・田島南小中一貫校）では、子どもたちの「荒れ」の背景にあるトラウマなどに配慮したトラウマ・インフォームド教育が行われていました。現場を見た西岡教授はその意義を感じ、普及を進めるために本プロジェクトに取り組んでいます。2024年、西岡教授はトラウマ・インフォームド教育の先進的な取り組みが進む米国での調査を実施。米国の専門家を招いた研究会の実施にもつながりました。



米国でトラウマ・インフォームド学校を推進するジョイス・ドラッド教授と研究交流。

## Outreach

### 対象者別の研修会・セミナーを開催。

研修会では『『生きる』教育』の実践につながるワークショップや専門家による講義を提供（2024年度4回実施・延べ339名参加）。教材・教具の試作品の配布も行い、意欲の高い方々への後押しを行いました。セミナーは広く『『生きる』教育』を伝えることを目的に、2025年3月1日に開催（約130名参加）。参加者は学校やNPO関係者、企業などで、終了後のアンケートでは『『生きる』教育』を実践したい、支援したいといった声が多く聞かれました。



## 研究者VOICE



豊かに生きる力で  
社会変革を。

西岡 加名恵  
教育学研究科 教授  
教育実践  
コラボレーション・センター長

生野南小学校において『『生きる』教育』を受けた子どもたちは、支配にも依存にも陥らない人間関係のつくり方を学び、お互いを支え合いながら豊かに自己形成を図っていく力を身につけていました。すべての子どもたち、また大人にとっても重要な教育プログラムだと確信しています。SMBCグループとも連携しつつ『『生きる』教育』の実践を広げることにより、人々が幸せに生きていける社会変革のムーブメントを生み出していきたいと願っています。

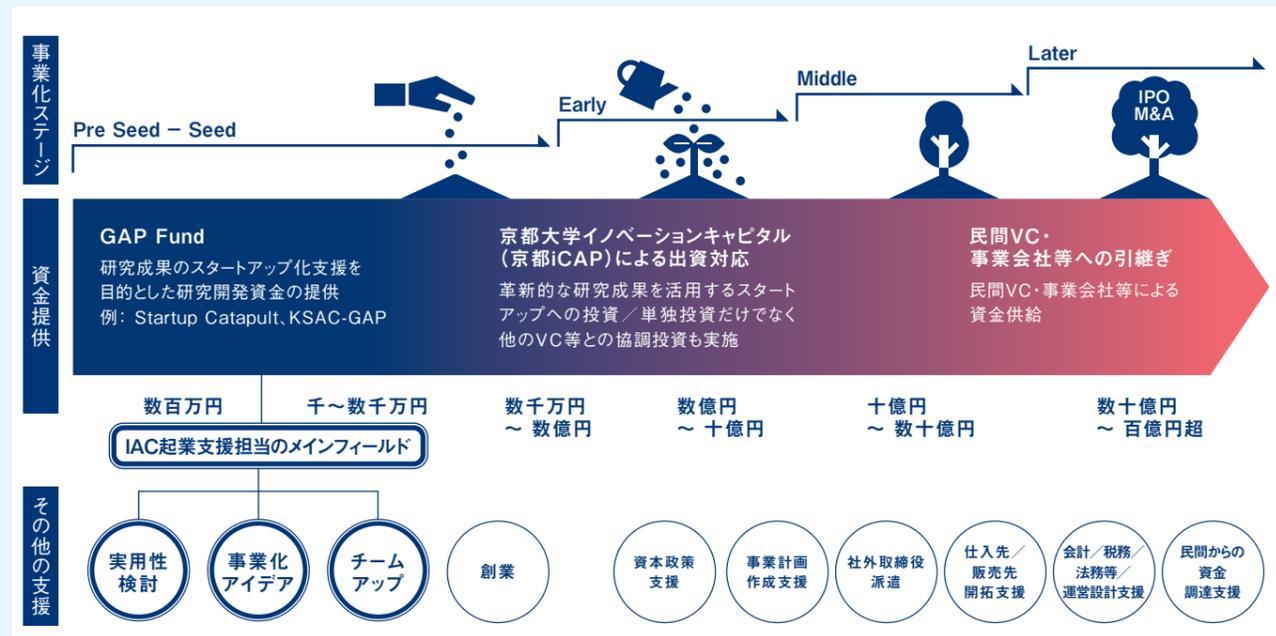
# スタートアップ創出事業

## 研究成果の社会実装を強力に推進。

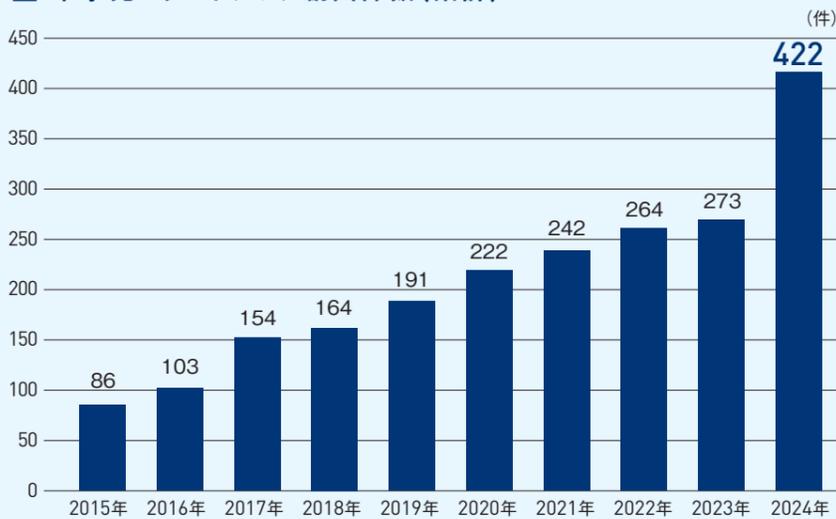
基礎研究の研究成果を基にしたこれまでにない新産業を生み出すため、成長戦略本部（IAC）と子会社の京都イノベーションキャピタル株式会社（京都iCAP）が連携し、創業前のプレシード段階から創業後までシームレスな取り組みを展開しています。三菱商事株式会社からの寄付による「京都大学ー三菱商事Startup Catapult」などのプログラムでは、事業化に向けた

研究開発資金を提供し、事業アイデアの具体化をサポート。また、創業と成長を後押しする投資ファンドの運用、客員起業家プログラムの運営といった人材の発掘・育成にも力を入れています。近年は、国際的な事業展開を図るスタートアップを念頭に、海外拠点での支援体制の確立や、海外で活躍する本学同窓生とのネットワーク構築も積極的に進めています。

## 事業化に向けたステージごとの支援を実施



## 本学発スタートアップ創出件数(累計)



※経済産業省「大学発ベンチャー実態等調査」より。

スタートアップ支援の詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶▶▶

<https://iac.kyoto-u.ac.jp/info/cat-1/>



成長戦略本部、京都iCAPの活動や学内の機運醸成により、研究成果によるスタートアップの創出件数や学外のスタートアップとの共同研究件数は着実に増加しています。大規模なスタートアップやロールモデルとなる事例も現れ始めています。

## 事例紹介 ライノフラックス株式会社

### 「発電するほどCO<sub>2</sub>排出を減らす」革新的なエネルギー変換技術を提供。

近年、脱炭素社会の進展により、安価でクリーンな電力需要が高まっています。バイオマス資源（動植物由来の有機性資源）は再生可能なクリーンエネルギーとして大きな可能性がありますが、従来の化石燃料に比べ発熱量が小さく、電力の変換効率が低いことが課題でした。しかし、ライノフラックス社は本学工学研究科の反応工学研究室で確立されたまったく新しいエネルギー変換技術を提供。小規模でも高効率な発電を可能にし、さらに、発電により発生するCO<sub>2</sub>を回収・再利用できるため「発電するほどCO<sub>2</sub>排出を減らす」技術となっています。



発電プラント「ライノハウス」の試作機。9mまで小型化でき、限られたスペースでも導入しやすい。

## 創業ストーリー

### 2022年 京都iCAPが起業家と研究者をつなぐ

現CEOの間澤氏は、三菱商事でのプロジェクトを通してエネルギー分野の課題に気づき、起業を模索。全国の大学の研究を調べていたところ、京都iCAPの紹介を通して、自ら発明した発電技術の実用化をめざす本学の蘆田講師と出会いました。

### 2023年 間澤氏が客員起業家プログラム第1期生に

間澤氏は、本学及び京都iCAPの客員起業家プログラム※に第1期生として参画。京都iCAP雇用の客員起業家として同社に在籍中、蘆田講師をはじめとする仲間と共同創業をめざしました。

※経営者候補人材の育成プログラム。大学発の研究シーズを探し、学び、起業準備活動に専念したい個人に、京都iCAPの契約社員として事業創成に取り組む機会を提供する。

### 「京都大学ー三菱商事Startup Catapult」での採択

間澤氏と蘆田講師は、三菱商事株式会社からの寄付により、事業化に向けた研究開発資金を提供するプログラム「京都大学ー三菱商事Startup Catapult」の第1回公募に申請し、採択されました。これにより実証機の設計が始まり、同社の設立準備や有望な顧客・パートナー候補との実証実験に向けた協議も行われ、本プログラム中に現CTOの萩本氏もジョインし、創業チームが固まりました。

### 2024年 ライノフラックス社 設立

#### 京都iCAP等からの資金調達

京都iCAPと複数の民間ベンチャーキャピタルが出資し、同社は補助金も含め計2.8億円の資金を調達。実証機の製作や顧客との協議の深化、人材採用などを進めています。



間澤 敦氏  
代表取締役CEO

#### Profile

三菱商事で金属資源トレーディングやスタートアップ投資を経験。本学の客員起業家プログラム第1期生として同社を共同創業。早稲田大学 政治経済学部卒業。



萩本 陽和氏  
取締役CTO  
(最高技術責任者)

#### Profile

三菱重工業での石炭ガス化複合発電やマイクロ波化学株式会社での多数のプロジェクト経験を経て、2024年に同社を共同創業。本学工学研究科 化学工学専攻修了。



蘆田 隆一氏  
取締役CSO  
(最高科学責任者)  
工学研究科 講師

#### Profile

25年以上、石炭・バイオマス・廃プラスチックなど炭素系資源の高効率利用をめざす研究に従事。本学工学研究科 化学工学専攻修了。博士(工学)。

# 京大病院基金

より質の高い医療の未来をめざして。

京大病院は、1899年に京都帝国大学医科大学附属病院として開設されて以来、大学病院としての使命である「診療・研究・教育」を追求してまいりました。「患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する」「新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する」「専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する」という3つの基本理念を掲げ、地域医療の中核を担い、国際社会にも貢献することをめざして病院運営に取り組んでおります。また、2015年には、より充実した医療を提供するための財政基盤を強化すべく「京大病院基金」を設立し、以来、多くの皆様から温かいご支援を賜っております。



## 125th ANNIVERSARY 京大病院開設125周年記念事業

当院は、2024年の開設125周年を機に「100年後の京大病院のあるべき姿のために」を基本コンセプトとして、基盤整備事業計画を開始いたしました。事業推進のため「京大病院開設125周年記念事業募金」へのご協力をお願いしましたところ、多くの皆様より心温まるご芳志を賜りましたこと、心より深く感謝申し上げます。ご支援のもと、患者さん一人ひとりに全力を尽くし、安全で安心、そして質の高い医療をお届けすることをめざし、社会との連携強化、施設・診療環境の整備、医療機器の刷新などの事業を展開してまいりました。125周年は一つの節目ではありますが、こうした重要な取り組みは今後も継続してまいりますので、今後とも当院へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

DATA (2025年4月15日時点)  
京大病院開設125周年記念事業募金

|       |       |
|-------|-------|
| 合計    | 2.8億円 |
| 個人    | 394件  |
| 法人・団体 | 39件   |

### ■ 記念事業の例

#### 01 院内保育所「ひだまり」を開所

当院で働く医療従事者が安心して仕事に専念できる環境を整えるため、2024年4月に院内保育所「ひだまり」を開所。基本保育や一時保育など、多様な働き方に対応しています。



#### 02 125周年記念市民公開講座を開催

医療や健康の知識をわかりやすくお伝えし、当院の診療・研究成果を地域の皆様へ還元することを目的に、計4回の市民公開講座を開催。延べ400名にご参加いただきました。



#### 03 記念誌の刊行と式典・祝賀会を実施

今後の発展の礎を築く事業として記念誌を刊行しました。2024年12月21日には「京都大学医学部附属病院開設125周年記念式典・祝賀会」を挙行了しました。



京大病院基金の詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/relation/donation.html>



# 高等研究院基金

最先端研究の発展と次世代育成のために。

世界最先端研究のハブである高等研究院には文部科学省の世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)に認定された「物質-細胞統合システム拠点(iCeMS | アイセムス)」「ヒト生物学高等研究拠点(ASHBi | アシュビィ)」の2つの拠があります。高等研究院基金は、先進的な研究活動を支援する「iCeMS基金」「ASHBi基金」と、環境整備やアウトリーチ活動を行う「高等研究院FOREST基金」から構成されています。皆様からご寄付を賜り、2024年度は院内の研究者が京都府文化賞特別功労賞、慶應医学賞等を受賞し、また、アーベル賞、Basic Science Lifetime Awardの受賞が決定しました。



高等研究院基金の詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://kuias.kyoto-u.ac.jp/j/fund/>



### 基礎研究の意義を社会へ発信。

高等研究院における最先端研究は、将来的に環境問題や医療などへの貢献が期待されるものですが、その実現には長い時間がかかります。基礎研究の重要性を知っていただくため、また次世代の研究者を育てていくため、社会へ情報発信を行っています。

#### ■ WPIサイエンスシンポジウム

文部科学省の世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)の研究者が高校生に研究成果を紹介し、各地から参加した高校生によるポスター発表も実施しました。

#### ■ 高等研究院設立10周年記念イベント

2026年に設立10周年記念イベントを開催予定です。高校生を含む一般の方々との対話の場を設けることを計画しております。



## 研究者VOICE

### 柏原正樹博士 アーベル賞受賞!

日本人として初めてアーベル賞を受賞した柏原博士は、数学のさまざまな分野の発展に大きく貢献したことが評価されました。博士が取り組んできた基礎研究を社会に発信する意義について、コメントをいただきました。



柏原 正樹  
高等研究院 特定教授・数理解析研究所 特任教授

### 新しいことを見出す数学の魅力を伝えたい。

このたびのアーベル賞は、50年にわたる研究全体が評価されたものと感じております。数学については、学校では受験が第一となっており、記憶力の要る学問と捉えられがちと聞いています。また「数学では就職できない」との声も聞かれ、若者が時間をかけて数学に向き合う機会が減っているようです。私は、じっくりと考え、おもしろい発想で新しいことを見出すことに数学の魅力があると考えています。研究成果だけでなく、こうしたさまざまな考え方やこれまでの経験等についても社会へ発信することで、より多くの方々が数学や学術研究全体に関心を持つ契機となれば幸いです。

# 京大アイスホッケー部活動支援基金



## 活動の基盤を支える、卒業生の熱い思い。

京都大学アイスホッケー部は1934年に創設され、戦前からインカレの常連校として活躍してきました。現在は強豪私立大学がひしめく関西学生リーグで、再びインカレ常連校をめざして日々練習に励んでいます。卒業生の皆様からのご寄付は、原則としてアリーナおよびリンク使用料に充てられており、1枠(90分)で約3万円と高額な費用の支えとなっています。寄付金は活動の基盤となっており、現役部員の負担軽減にもつながっています。また、毎年2月には寄付募集活動を実施し、部員全員がその意義を理解したうえで取り組んでいます。日頃より寄せていただいているご支援・ご声援について、改めて感謝をお伝えする貴重な機会となっております。

京大アイスホッケー部活動支援基金の詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/icehockey/>



# 京大応援団基金



## 力強い姿で学生たちを応援するために。

京都大学応援団は、リーダー部・プラスバンド部・チアリーダー部の三部が一体となり、日々さまざまな場面で活動を行っています。皆様からのご寄付は、横断幕や団旗といった物品の修繕・新調、楽器の修理や関西圏外への遠征費用などに充てさせていただいております。中でも団旗は応援団を象徴する最も大切な物品です。ご寄付を活用させていただくことで、この団旗を常に威厳のある形で維持することができ、周囲の方々に応援団の活動とその輝きを示すことができいております。屋外で使用する道具の多くは雨風・強い日差しにさらされるため、定期的な修理・購入が不可欠です。ご支援により、滞りのない応援活動が可能となっております。

京大応援団基金の詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/cheer/>



## 学生VOICE



日頃より温かい  
ご支援とご声援を賜り、  
心より感謝申し上げます。

**原島 碧生**  
主将  
法学部 4回生

防具や遠征費など金銭面での負担が大きい競技環境の中で、月10回の氷上練習を続けられているのは、皆様からのご寄付のおかげです。交流練習会でいただく貴重なアドバイスは、技術面だけでなく精神的な支えにもなっています。上回生となった今、1回の練習にかかる費用の重みをより実感するようにもなりました。現役一同、全力で精進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援を何卒よろしくお願いいたします。

### アイスホッケー部 ココが魅力!

「大学から始めることができる」こと。同じスタートの部員同士、切磋琢磨しています。卒業生との交流練習会では、ご年齢を重ねてもはつらつとプレーを続けておられる姿に感銘を受けております!

## 応援メッセージ



伝統を誇りに  
誇りのある学生生活を。

**辻次 賢二 氏**  
独立行政法人都市再生機構 理事長代理  
洛水会 会長

京大アイスホッケー部は90年を超える歴史を有し、日本のアイスホッケー界の中でも有数の伝統を誇るクラブです。部員は、ほとんどが京大に入学してからアイスホッケーを始めますが、上回生になるとリンクを駆け回り、スティックでバックを自在に操るプレイヤーに成長します。学業だけでなく、アイスホッケー部の活動を通じて、かけがえのない仲間を得て、日々学びに溢れ、唯一無二の有意義で充実した学生生活を送ってほしいと切に願っています。

### Profile

1985年京都大学 経済学部卒業。卒業後、株式会社日本興業銀行入行。2015年4月より株式会社みずほフィナンシャルグループ 執行役常務、株式会社みずほ銀行 常務執行役員を経て、2024年7月より現職。2023年1月、洛水会 会長に就任。

## 学生VOICE



いつも応援団の活動を  
支えてくださり、  
誠にありがとうございます。

**小池 直虎**  
団長  
経済学部 4回生

他の体育会クラブとは異なり、応援団の活動自体には点数・勝ち負けをつけることはできません。ですが、学生の方々に少しでも元気や力を与えられる応援ができるよう、少人数を思わせない迫力ある応援をめざして日々精進しております。これからも応援団の活動に誇りを持ち、常に「より良い応援」を追求して成長してまいりますので、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 応援団 ココが魅力!

常に応援対象を主体として考え、相手のために全力でエールを送っています。その結果として、応援対象と一緒に勝利を喜ぶ点や、団の外側にも交友関係ができる点が他にはない魅力です!

## 応援メッセージ



心をつなぐエールの姿、  
これからも。

**田中 輝夫 氏**  
いぶき会 会長

いぶき会は京大応援団のOB/OG会として約70年になります。応援のための音楽や振り付けなどは時とともに少しずつ変わってきていると思います。しかし、観客に向かって大声を上げ、観客を盛り上げ、観客と一体となって応援する団員の姿、そして試合の前後に行われる学歌・校歌の斉唱と勝敗は別にして、両校の健闘をたたえるエール交換などは今も昔も変わらない光景です。これらの光景が続きますように、これからも応援団を応援します。

### Profile

1980年京都大学 農学研究科修了。1980年日本新薬株式会社入社。2005年日本新薬株式会社 食品開発研究所 所長、2009年タジマ食品工業株式会社 社長、2017年大阪工業大学 工学部 生命工学科 客員教授を歴任し、2023年4月よりいぶき会 会長に就任。

寄付者インタビュー

interview 01



堀内 正宏氏 堀内 薫氏

Profile

堀内正宏氏は大学卒業後、大手建設会社の管理部門での勤務を経て、転職後、海外の子会社で社長職を経験。帰国後に27歳で独立し、現在は薫氏とともに時間貸し駐車場をはじめ不動産賃貸業を営む。量子宇宙論などの物理学に興味を持ち、最近では京大の理系分野の研究に関心を寄せている。

医療への感謝を、自由な研究の力に。明確な使途が信頼を深める。

卒業生ではない私たち夫婦が京都大学と接点を持ったのは、妻の病気がきっかけです。京都市内の病院を受診していたのですが、一度きちんと遺伝子を調べた方がよいと京都大学医学部附属病院を紹介されました。難しいとされる詳しい検査などを積極的に実施して下さったことがとても心に残っています。また、その関係から研究室の先生方とも知り合うことができました。

その後、母がアルツハイマーを患った際に介護担当の方の献身的な仕事ぶりを見たり、コロナ禍のときには医療従事者が大変な思いをしながら働いていらっしゃる様子を見るにつれ、医療従事者の方々への尊敬の思いが湧いてきました。そこで、私たちに何かできることはないかと考えるようになり、治療でお世話になっているお礼も兼ねて京都大学基金と本庶佑有志基金に寄付することに決めたのです。

寄付をしてわかったことですが、寄付は自分自身のためでもあるんですね。特に、使用目的が明確で実績報告があると、安心感もあり精神的によい影響があると思います。私は趣味で物理学に興味をもっており、京大の研究にも大いに注目しています。京大は、ノーベル賞受賞者も多く、キャンパスの雰囲気も自由でおもしろい。これからも期待しています。

interview 02



西田 隆文氏  
高岡商工会議所 専務理事

Profile

1978年京都大学 法学部を卒業し北陸銀行に入行。1988年ハーバード大学 行政学大学院修士号取得、2001年証券アナリスト、2014年同行常務取締役。2016年同行退職。

大学の主旨を歩み世界に貢献する 京都大学を応援したい。

京大法学部を卒業し地元銀行に入行、1980年代後半にハーバード大学の行政学大学院に留学する機会がありました。当時は多くの日本企業が米国はじめ海外に進出し、地方銀行も積極的に海外展開、エズラ・F. ヴォーゲル教授の『ジャパンプランナンバーワン』がベストセラーとなった日本経済の隆盛期でした。とはいえ、合格までには苦勞し、ゼミの前田達明先生(民法)や「外国書講読」を受講していた高坂正堯先生(政治学)の推薦状をいただき合格することができました。今でも両先生のおかげと感謝しております。

今、少子高齢化・人口減少の中で苦闘する中小商工業者の皆さんに、生産性向上や海外への販路開拓、あるいは事業承継など、商工会議所の職員として多少なりとも相談支援業務で貢献できるのは、大学での学びをはじめ、これまでいろいろな経験をさせていただいたおかげです。

実は湊総長は富山県立高岡高校の先輩でもいらっしゃいますので、この機会にぜひ京大への感謝を形で表したいと思い僭越ながらご寄付させていただくことにしました。京大の素晴らしいご活躍は卒業生として誇らしいものです。我が京大が大学の主旨を歩まれ、さらに世界に貢献されることを祈念しております。

interview 03



櫻本 真理氏  
株式会社コーチェット  
代表取締役社長

Profile

2005年に京都大学 教育学部を卒業し、証券会社へ。2014年にオンラインカウンセリングサービスを提供する株式会社cotree、2020年に株式会社コーチェットを設立。2022年、日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー受賞。2025年度の企業寄附奨学制度(DDD)へご寄付。

与え合い、育て合うという好循環を生み出す起点として。

高校生のときに河合隼雄先生の本を読んで心理学に興味を持ち、京都大学教育学部に進学しました。在学中は、学部にごこだわらず、他学部の講義に出たり他学部の仲間と勉強会をしたり。やりたいと思えば自分の好きなことをできる環境があり、既存の規範にとらわれず「外し」を楽しむ価値観を培えました。

私は、学生時代も起業後も、いろいろな人に育てられてきたと感じています。その恩返しとして、社会によい循環を生み出したいと考え、奨学金設立を決めました。「受け取る体験」をした人が、次は「与える側」になる。攻撃や奪い合いではなく、与え合ったり育て合ったりという好循環こそが社会を豊かにするのではないのでしょうか。たとえ小さな金額でも、それによって新たな循環が生まれれば大きなインパクトになるかもしれません。今回のこととお話すると、「自分も寄付したい」と関心を持つ方も少なからずいらっしゃいますので、こうした輪が広がっていけばよいと思います。この奨学金が学生の皆さんの可能性を広げ、新たな循環の起点となることを願っています。

Company Profile

株式会社コーチェット

リーダー向けの伴走型パーソナルトレーニングや経営者のメンタルヘルスを支えるカウンセリングサービスを提供。また、高校生向けのプロジェクトなど、教育現場で役立つプログラムにも取り組んでいる。

interview 04



原田 學植氏  
弁護士

Profile

2004年、京都大学 法学部卒業。2009年、京都大学 法科大学院修了。第一東京弁護士会、法律事務所Steadinessに所属し、弁護士として執務。

弁護士人生の糧となる学びを得た京大への恩返しと、「理性」の基盤のために。

幼少の頃より「京大に行って弁護士になる」となんとなく思いながら法学部に進みつつ、学部時代は好奇心の赴くままフランス語を用いる講読授業や小野紀明先生の政治思想史ゼミ等で学び、学友と語り、音楽と映画と読書に耽っていました。法科大学院入学後は専門職に直接関係する実定法の勉強に励む一方、「フランス法」演習授業で横山美夏先生の警咳に接しました。市民社会と法と公共性なるものについて、歴史的考察をたどりながらの議論によって基礎理論的思考を鍛えていただいたことも私の職業人生の糧になっています。

勉学にかけては私は不出来もいところで、綺羅星のような先生方や学友たちから与えられた学恩に学問をもって報いることはできません。ただ、素晴らしい場所ですばらしい人たちと同じ空気を呼吸させてもらったことへの感謝の気持ちから、私にもできる恩返しをしようと、寄付を思い立ちました。京都大学は、ボンクラ卒業生のいじましい郷愁などとは無縁に、これまでもこれからも知的刺激を世界に与えるプラットフォームであり続けることでしょう。そのような場所の維持に貢献すること、次世代に人類の資産を届けるお手伝いをするのも、京大で学んだ「理性の公共的使用」実践の一形態ではないかと思っています。

# 京都大学への寄付をご検討の皆様へ

京都大学の教育・研究活動の充実のために、さまざまな窓口からご寄付を受け付けております。

## ご寄付の方法

### ■ ウェブサイトからの手続き



### ■ 定期的なご寄付の手続き

クレジットカード決済および口座振替により、毎月・年2回・年1回の定期的なご寄付をいただけます。

### ■ 金融機関からの振込による手続き



### ■ 法人・団体の皆様

払込手続き書類が必要な場合は、お問い合わせください。

ご寄付の方法の詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/howto/>



## 税制上の優遇措置

### ■ 個人の方

#### 所得税

所得税法第78条第2項第2号により、その年に支出した寄付金額(総所得金額等の40%を上限とする)から2,000円を引いた額を、所得金額から控除することができます。

対象の支援プロジェクト※1へのご寄付に限り、「税額控除」または「所得控除」のいずれか有利な制度を選択いただけます。

#### 住民税

京都大学を寄付金控除の対象法人として条例で指定している都道府県・市区町村※2にお住まいの方は、個人住民税の控除を受けることができます。

※1 「税額控除」の対象となるプロジェクト「京都大学修学支援基金」「CFプロジェクト」

※2 個人住民税控除対象の都道府県：京都府・大阪府・滋賀県・徳島県・山口県・愛知県。市町村についてはウェブサイトをご参照ください。

### ■ 法人・団体の場合

法人税法第37条第3項第2号により、寄付金の全額を損金算入することができます。

税制上の優遇措置の詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/exemption/>



## 顕彰制度

### ■ 百周年時計台記念館での銘板の掲示

寄付金額の累計に応じた銘板を百周年時計台記念館に掲示し、末永く顕彰させていただきます。

| 銘板の種類 | 寄付累計額     |           |
|-------|-----------|-----------|
|       | 個人        | 法人・団体     |
| ゴールド大 | 5,000万円以上 | 1億円以上     |
| ゴールド  | 1,000万円以上 | 5,000万円以上 |
| シルバー  | 500万円以上   | 1,000万円以上 |
| ブロンズ  | 100万円以上   | 300万円以上   |



### ■ 紺綬褒章

●「紺綬褒章」は国の褒章制度の一つで、公益のために、私財(個人 500万円以上、団体 1,000万円以上)を寄付した個人または団体に授与されるものです。

●本学は、内閣府賞勲局より紺綬褒章に係る公益団体として認定を受けており、寄付者様のご意向に添って紺綬褒章の推薦をいたします。

顕彰制度の詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/privilege/>



## 寄付先一覧

### 特定基金一覧 (2025年7月1日時点)

#### ■ 学部・研究科を支援する基金

- 思修館基金
- 理学研究科基金
- 京大工学基金
- 教育学研究科・教育学部基金
- 薬学教育研究基金
- 総合人間学部 / 人間・環境学研究科基金
- 情報学研究科基金
- 経済学研究科・経済学部 教育研究支援基金
- 文学部・文学研究科基金

#### ■ 課外活動を支援する基金

- 京大硬式野球部支援基金
- 京大ボート部活動支援基金
- 京大アメリカンフットボール部 強化支援基金
- 京大ラグビー部活動支援基金
- 京大サッカー部活動支援基金
- 京大ヨット部活動支援基金
- 京大馬術部基金
- 京大ウインドサーフィン部活動支援基金
- 京大応援団基金
- 京大アイスホッケー部活動支援基金
- 京大機械研究会基金
- 京大ボウリング部活動支援基金

- 京大フットサル部活動支援基金
- 京大バスケットボール部強化支援基金
- 京大水泳部活動支援基金
- 京大弓道部活動支援基金
- 京大スキー競技部支援基金
- 京大硬式テニス部活動支援基金
- 京都大学交響楽団活動支援基金

- 野生動物研究センター基金
- 霊長類研究基金
- 京大芦生研究林基金
- 京大数理解析研究基金
- 京都大学デザインスクール基金
- Kyoto iUP留学生支援基金
- 福井謙一記念研究センター基金
- 京大病院基金
- 生物多様性・生態系研究基金
- ウイルス・再生医学研究基金
- 京大志賀高原ヒュッテ基金
- がん免疫治療研究基金
- 防災研究所基金
- 人と社会の未来研究院基金
- プラットフォーム学卓越大学院 プログラム基金
- 西田哲学一千本基金
- 京都大学このえ基金
- 次世代白眉等若手研究者はぐくみ基金
- 京都大学・日本モンキーセンター 霊長類共同事業推進基金
- キャンパスライフ支援基金

#### ■ 記念事業・資料保全事業を支援する基金

- 農学部100周年記念事業基金
- 化学研究所創立100周年基金
- 京都大学貴重資料 デジタルアーカイブ基金
- 東南アジア図書室保存基金
- 人文科学研究所創立百周年基金

#### ■ 学生・研究者を支援する基金

- 本庶佑有志基金 (ノーベル生理学・医学賞受賞記念)
- ころの未来基金
- iPS細胞研究基金
- 京大天文台基金
- iCeMS基金
- ASHBi基金
- 高等研究院FOREST基金
- アフリカ研究基金

#### ■ 学生の修学支援のための基金

- 京都大学修学支援基金
- CFプロジェクト
- ウクライナ危機支援基金

特定基金の詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/project/>



## [クラウドファンディング]ご当地出身学生 海外留学支援プロジェクト

対象 / 北海道・石川県・富山県・静岡県・岡山県・広島県・福岡県

クラウドファンディングの詳細はこちらをご覧ください。▶▶▶  
<https://unisappornavi.com/kyoto-u/>

